

病害虫発生予報 第2号

(向こう1か月間の発生予報)

I 総括表

作物名	病害虫名	地域	発生量	発生時期	摘要
麦	赤かび病	全域	並～やや多	早	
	さび病	全域	並	並	
	うどんこ病	全域	並～やや多	並	
水稲	ニカメイチュウ	全域	やや多	早	
	ツマグロコバイ(イネ黄萎病)	全域	並	並	
	イネドロオイムシ	全域	並	並	
	イネミズゾウムシ	全域	やや多	やや早～早	
りんご	赤星病	全域	並	並	
	うどんこ病	全域	並	並	
	黒星病	全域	並	早	
	斑点落葉病	全域	並	並	
	腐らん病	全域	並～やや多	—	
	黒点病	全域	並	やや早	
	アブラムシ類	全域	並	並～やや早	
	キンモンホソガ	全域	並	並～やや早	
	ナシヒメシンクイ	全域	並	並～やや早	
	リンゴハダニ	全域	並	並～やや早	
	ナミハダニ	全域	並	並～やや早	
リンゴコカクモンハマキ	全域	並	並～やや早		
なし	赤星病	全域	並	並	
	黒星病	全域	並	並	
	黒斑病	全域	並	並	
	胴枯病	全域	並	並	
	アブラムシ類	全域	並	並	
	クワコナカイガラムシ	全域	並	やや早～早	
	ナシヒメシンクイ	全域	並	やや早～早	
	モモシンクイガ	全域	並	並	
	リンゴハダニ	全域	並	並	

なし	ナミハダニ	全域	並	並	
	リンゴコカクモンハマキ	全域	並	並	
もも	黒星病	全域	並	並	
	せん孔細菌病	全域	並	やや早	
	灰星病	全域	並	やや早	
	シンクイムシ類	全域	並	並～やや早	
	ハマキムシ類	全域	並	並～やや早	
	モモハモグリガ	全域	並	並～やや早	
	アブラムシ類	全域	並	並～やや早	
ぶどう	カメムシ類	全域	並	並～やや早	
	晩腐病	全域	並	やや早	
	べと病	全域	並	やや早	
	灰色かび病	全域	並	やや早	
	黒とう病	全域	並	やや早	
うめ	チャノキイロアザミウマ	全域	並	並～やや早	
	かいよう病	全域	—	—	
トマト	黒星病	全域	—	—	
	葉かび病	全域	並	並	
きゅうり	べと病	全域	並	並	
施設果菜類	灰色かび病	全域	並	並	
	うどんこ病	全域	並	並	
	アザミウマ・アブラムシ類	全域	並	並	
	オンシツコナジラミ	全域	並	並	
アブラナ科野菜	黒斑細菌病	全域	並	並	
	コナガ	全域	やや多	並	
レタス	斑点細菌病	全域	並	並	
	腐敗病・すそ枯病・灰色かび病・菌核病	全域	並～やや多	並	
アスパラガス	茎枯病	全域	並	並	
	ジュウシホシクビナガハムシ	全域	並	並	
たまねぎ	べと病	全域	並	並	
野菜・花き全般	アブラムシ類	全域	並	並	
	ハモグリバエ類	全域	並	並	
	オオタバコガ	全域	並	並	

※発生時期の空欄は、発生時期の関係ないものや発生中のものを示す。

II 向こう1か月の天候の見通し及び予報の根拠にかかる気象要因

1 向こう1か月の天候の見通し (気象庁 令和5年5月11日発表)

○関東甲信地方【5月13日～6月12日】

暖かい空気に覆われやすいため、向こう1か月の気温は平年並か高い見込み。

○向こう1か月の平均気温、降水量、日照時間の出現確率(%)

区分	低い(少ない)	平年並	高い(多い)
平均気温	20	40	40
降水量	30	40	30
日照時間	40	30	30

2 予報の根拠にかかる気象要因

(+)は発生を増加させる要因、(-)は発生を減少させる要因を示す。

III 麦

1 赤かび病

(1) 予報の内容 発生量：平年並～やや多い 発生時期(感染時期)：早い

(2) 予報の根拠

①5月上旬現在、生育は平年に比べて進んでいる。

②気象要因(+) 向こう1か月の気象予報では、気温は平年並か高く、降水量はほぼ平年並と予想されている。

(3) 防除上の留意点

①最も感染しやすい開花期に防除を行う。

②開花期に曇雨天が続くと多発する。多発が予想される場合には、第1回防除(開花期)から10～14日後に追加防除を行う。

③今後の発生予察情報及び気象情報に注意する。

2 さび病

(1) 予報の内容 発生量：平年並 発生時期：平年並

(2) 予報の根拠

①5月上旬の巡回調査では、発生は確認されなかった。

②例年、5月中旬頃から発生が増加する。

(3) 防除上の留意点

①発病初期を中心に防除を行う。

②5月上旬にコムギ赤さび病の発病がみられたほ場では、実害が生じる程度まで発病が増加するリスクが高いため、開花期に防除を行う。

3 うどんこ病

(1) 予報の内容 発生量：平年並～やや多い 発生時期：平年並

(2) 予報の根拠

①5月上旬の巡回調査では、一部のほ場で発生がみられているが、全般に発生は平年並である。

②気象要因(+) 向こう1か月の気象予報では、気温は平年並か高く、降水量はほぼ平年並と予想されている。

(3) 防除上の留意点

①発病初期を中心に防除を行う。

IV 水稲

1 ニカメイチュウ(第1世代幼虫)

(1) 予報の内容 発生量：やや多い 発生時期：早い

(2) 予報の根拠

①昨年、東信地域、北信地域で平年に比べて発生がやや多かった。

②須坂市及び小布施町のフェロモントラップでは、5月第1半旬まで誘殺は確認されていないが、上田市設置の予察灯への誘殺は平年と比べ早く、5月5日に初誘殺された。

(3) 防除上の留意点

①5月下旬以降の移植であれば、苗箱施薬剤の処理効果は高い。前年に被害が発生した地域では、苗箱施薬剤にニカメイチュウにも効果のある薬剤を用いる。薬剤は「農作物病害虫・雑草防除基準」(以下「県防除基準」という。)を参考に選択する。

②本田防除を行う場合、第1世代幼虫防除適期は越冬世代成虫の発蛾最盛期(北信地域の平年は6月第2半旬)の10～15日後である。

2 ツマグロヨコバイ第1回成虫(イネ黄萎病)

(1) 予報の内容 発生量：平年並 発生時期：平年並

(2) 予報の根拠

①前年は発生がやや少なかったため、越冬虫はやや少なかったと推察される。

②4月の畦畔の吹き出し調査では、一部の地域で、成虫の捕獲虫数及び捕獲地点率が多かった。

(3) 防除上の留意点

①イネ黄萎病の発生の恐れのある地域では、「県防除基準」を参照し、ツマグロヨコバイに効果の高い苗箱施薬剤を選択する。

3 イネドロオウムシ

(1) 予報の内容 発生量：平年並 発生時期：平年並

(2) 予報の根拠

①前年の発生は、一部のほ場で発生が多かったが、全般には平年と比べやや少なかった。

(3) 防除上の留意点

①発生期間が長引く場合は、苗箱施薬を実施していても本田防除を検討する。

4 イネミズソウムシ

- (1) 予報の内容 発生量：やや多い 発生時期：やや早い～早い
- (2) 予報の根拠
- ①前年の発生はやや多く、越冬量も平年と比べ多かったものと推察される。
 - ②4月の畦畔の吹き出し調査では、一部の地域で成虫の捕獲虫数は多かった。
 - ③アメダスの気温データから算出した越冬地からの半数脱出推定時期は、全般に早い予測となっている（5月8日現在）。
- (3) 防除上の留意点
- ①苗箱施薬をしても発生の多い場合は、本田防除を検討する。
 - ②本田における要防除密度は、成苗で株当たり成虫1頭、中苗で0.7頭、稚苗で0.4頭である。
 - ③湛水直播栽培では被害を受けやすいので、多発地域では発芽直後から発生に注意する。

V りんご

1 赤星病

- (1) 予報の内容 発生量：平年並 発生時期：平年並
- (2) 予報の根拠
- ①越冬伝染源量は平年並と予想される。
- (3) 防除上の留意点
- ①防除間隔を空けすぎないように留意し、「県防除基準」を参照し、防除する。

2 うどんこ病

- (1) 予報の内容 発生量：平年並 発生時期：平年並
- (2) 予報の根拠
- ①全般に越冬伝染源量は、平年並と予想される。
 - ②須坂市（果樹試験場）の無防除樹における花そう葉での初発は、平年並であった。
- (3) 防除上の留意点
- ①ほ場内をよく点検し、被害花そうを早期にせん徐して、土中に埋める。
 - ②発生が多い場合は、「県防除基準」を参照し、防除効果の高い農薬を散布する。

3 黒星病

- (1) 予報の内容 発生量：平年並 発生時期：早い
- (2) 予報の根拠
- ①全般に越冬伝染源量は、平年並と予想される。
 - ②須坂市（果樹試験場）の無防除樹における花そう葉での初発は、平年並であった。
 - ③子のう胞子の飛散のピークは、4月下旬から5月上旬とみられる。
 - ④気象要因（+） 向こう1か月の気象予報では、降水量は平年並と予想されている。

- (3) 防除上の留意点
- ①薬剤耐性黒星病菌の定着・拡散を防止するため、「県防除基準」を参照し、薬剤を選定する。
 - ②5月下旬までの防除が重要である。防除間隔をあけすぎないように留意し、降雨状況等を勘案して定期的に防除する。

4 斑点落葉病

- (1) 予報の内容 発生量：平年並 発生時期：平年並
- (2) 予報の根拠
- ①伝染源量は、平年並とみられる。
- (3) 防除上の留意点
- ①防除間隔をあけすぎないように留意し、定期的に防除する。

5 腐らん病

- (1) 予報の内容 発生量：平年並～やや多い
- (2) 予報の根拠
- ①近年、発生量はやや多めに経過している。
- (3) 防除上の留意点
- ①園内の点検に努め、早期発見・治療に努める。
 - ②病斑の削り取り後は、農薬登録のある塗布剤で必ず処理する。
 - ③枝幹部にも、薬剤が十分かかるように散布する。

6 黒点病

- (1) 予報の内容 発生量：平年並 発生時期：やや早い
- (2) 予報の根拠
- ①伝染源量は平年並とみられる。
 - ②りんごの生育は、平年と比べ早いことから、発生時期はやや早いと予想される。
- (3) 防除上の留意点
- ①防除間隔を空けすぎないように留意し、防除する。

7 アブラムシ類

- (1) 予報の内容 発生量：平年並 発生時期：平年並～やや早い
- (2) 予報の根拠
- ①越冬量は、平年並と予想される。
 - ②りんごの生育は、平年と比べ早いことから、発生時期はやや早いと予想される。
 - ③巡回調査では、北信地域の一部で葉に寄生がみられた。
- (3) 防除上の留意点
- ①葉が捲いてからでは十分な防除効果が得られないので、発生初期の薬剤散布を心がける。剤によっては蚕毒が強いものがあるので注意する。

8 キンモンホソガ

- (1) 予報の内容 発生量：平年並 発生時期：平年並～やや早い

(2) 予報の根拠

- ①全般に越冬世代成虫の発生量は、平年並と予想される。
- ②りんごの生育は、平年と比べ早いことから、発生時期は平年並～やや早いと予想される
- ③須坂市のフェロモントラップ調査では、越冬世代成虫の誘殺が4月第1半旬からみられている。

(3) 防除上の留意点

- ①「県防除基準」を参照し、防除する（蚕毒に注意）。

9 ナシヒメシンクイ

(1) 予報の内容 発生量：**平年並** 発生時期：**平年並～やや早い**

(2) 予報の根拠

- ①越冬幼虫量は、平年並と予想される。
- ②越冬世代成虫が、平年と比べやや早く誘殺されている、りんごの生育は平年と比べ早いことから、発生時期はやや早いと予想される。

(3) 防除上の留意点

- ①芯折れの被害枝は、切除して焼却する。
- ②6月に「芯折れ症状」が多い場合は、第二世代幼虫の防除を徹底する。
- ③産卵のピーク時期は、防除間隔を2週間以上あけないようにする。

10 リンゴハダニ

(1) 予報の内容 発生量：**平年並** 発生時期：**平年並～やや早い**

(2) 予報の根拠

- ①越冬卵量は、全般に平年並と予想される。
- ②気象要因（+） 向こう1か月の気象予報では、気温は平年並か高いと予想されている。

(3) 防除上の留意点

- ①発生が多い場合は、殺ダニ剤を散布する。
- ②防除は、散布むらが生じないように散布する。

11 ナミハダニ

(1) 予報の内容 発生量：**平年並** 発生時期：**平年並～やや早い**

(2) 予報の根拠

- ①越冬成虫量は、全般に平年並と予想される。
- ②気象要因（+） 向こう1か月の気象予報では、気温は平年並か高いと予想されている。

(3) 防除上の留意点

- ①発生が多い場合は、殺ダニ剤を散布する。
- ②防除は、散布むらが生じないように散布する。

12 リンゴコカクモンハマキ

(1) 予報の内容 発生量：**平年並** 発生時期：**平年並～やや早い**

(2) 予報の根拠

- ①越冬幼虫の発生量は、平年並と予想される。

(3) 防除上の留意点

- ①「県防除基準」を参照し、防除する（蚕毒に注意）。
- ②発生時期を把握し、防除が遅れないように留意する。
- ③交信攪乱剤を利用する場合は、遅れないように設置する。

VI なし

1 赤星病

(1) 予報の内容 発生量：**平年並** 発生時期：**平年並**

(2) 予報の根拠

- ①巡回調査では、発生はみられなかった。

(3) 防除上の留意点

- ①発生が多い場合は、伝染源となるビャクシン類が近隣に存在する場合がありますので、可能であれば伐採する。

2 黒星病

(1) 予報の内容 発生量：**平年並** 発生時期：**平年並**

(2) 予報の根拠

- ①巡回調査では、発生はみられなかった。
- ②南信農業試験場の子のう胞子飛散は、4月第2半旬から確認されている。

(3) 防除上の留意点

- ①定期的に薬剤散布を行い防除する。特に、常発園では受粉樹の防除も行う。
- ②散布むらが生じないようにする。
- ③罹病果、罹病葉は見つけ次第切除し、焼却または埋却する。
- ④前年に発生が多かった園地、開花期前後の防除間隔をあけすぎた園地では、発生状況に注意し、今後の果実感染を予防する対策を講ずる。

3 黒斑病

(1) 予報の内容 発生量：**平年並** 発生時期：**平年並**

(2) 予報の根拠

- ①巡回調査及び県予察ほでは、発生はみられなかった。
- ②伝染源となる胞子の飛散時期・飛散量は平年並と予想される。

(3) 防除上の留意点

- ①「二十世紀」、「南水」では袋掛けまでの防除を徹底するとともに、防除間隔をあけすぎないようにする。袋掛けは生育に合わせて行い、作業が遅れないよう留意する。
- ②発生園では、下草刈り、防風ネットを一時的に除去する等により園地環境を改善する。
- ③発病果は見つけ次第、除去する。

4 胴枯病

(1) 予報の内容 発生量：**平年並** 発生時期：**平年並**

(2) 予報の根拠

①巡回調査では、発生はみられなかった。

(3) 防除上の留意点

- ①枯死枝はせん除する。主幹部の病斑は除去し、塗布剤を処理する。
- ②凍霜害を受けた園地では、降雨により感染が拡大する場合がありますので注意する。
- ③胴枯病菌は、「幸水」に心腐れ症状を起こす場合がある。

5 アブラムシ類

(1) 予報の内容 発生量：平年並 発生時期：平年並

(2) 予報の根拠

①巡回調査では、一部のほ場でユキヤナギアブラムシの寄生がみられたが、平年並と予想される。

(3) 防除上の留意点

- ①主な発生種であるワタアブラムシは、有機リン剤、合成ピレスロイド剤などに対して感受性が低い場合があるので注意する。
- ②葉が捲いてからでは、十分な防除効果が得られないので、発生初期に防除する。
- ③葉が捲いている場合は、防除効果の高い薬剤を散布する。

6 クワコナカイガラムシ

(1) 予報の内容 発生量：平年並 発生時期：やや早い～早い

(2) 予報の根拠

①有効積算温度による越冬卵のふ化完了予測日は5月9日で、平年と比べて早い。

(3) 防除上の留意点

- ①多発地域では、ふ化初期から有機リン剤など効果の高い殺虫剤を2週間間隔で2～3回散布する。
- ②IGR（アプロード水和剤）は、時期を逸しないように散布する。

7 ナシヒメシクイ

(1) 予報の内容 発生量：平年並 発生時期：やや早い～早い

(2) 予報の根拠

①南信農業試験場のフェロモントラップでは、平年並に推移している。

(3) 防除上の留意点

- ①6月に「心折れ症状」が多い場合は、第2世代幼虫の防除を徹底する。
- ②産卵ピーク時期は、防除間隔は2週間以上あけないようにする。

8 モモシクイガ

(1) 予報の内容 発生量：平年並 発生時期：平年並

(2) 予報の根拠

①越冬幼虫量は、平年並と予想される。

(3) 防除上の留意点

①産卵ピーク時期には、防除間隔を2週間以上あけないようにする。

9 リンゴハダニ

(1) 予報の内容 発生量：平年並 発生時期：平年並

(2) 予報の根拠

①越冬卵量は、冬芽の調査では平年並であった。

(3) 防除上の留意点

- ①発生状況を確認して、密度が増加する前に殺ダニ剤を散布する。
- ②散布むらが生じないようにする。

10 ナミハダニ

(1) 予報の内容 発生量：平年並 発生時期：平年並

(2) 予報の根拠

①越冬成虫量は、平年並と予想される。

(3) 防除上の留意点

- ①発生状況を確認して、密度が増加する前に殺ダニ剤を散布する。
- ②散布むらが生じないようにする。

11 リンゴコカクモンハマキ

(1) 予報の内容 発生量：平年並 発生時期：平年並

(2) 予報の根拠

①越冬幼虫量は、平年並と予想される。

(3) 防除上の留意点

- ①発生時期を把握し、遅れないように防除する。
- ②交信かく乱剤は、遅れないように設置する。

Ⅶ もも（ネクタリンを除く）

1 黒星病

(1) 予報の内容 発生量：平年並 発生時期：平年並

(2) 予報の根拠

①近年、発生は平年並である。

(3) 防除上の留意点

①5月中下旬～6月に、登録のある殺菌剤を散布する。剤によっては、高温時に散布すると葉害が発生する恐れがあるので注意する。

2 せん孔細菌病

(1) 予報の内容 発生量：平年並 発生時期：やや早い

(2) 予報の根拠

①伝染源量は、平年並と予想される。

(3) 防除上の留意点

- ①第一次伝染源である春型枝病斑は、見つけしだい必ずせん除し、埋却処分等を行う。
- ②「県防除基準」を参照し、抗生物質剤等を選択して防除する（使用時期に注意）。これらの剤は薬剤耐性菌出現の恐れがあるので、使用回数等に注意する。
- ③抗生物質剤の中には、満開約30～14日前の有核ぶどうにかかると、種なし果を生じさせる場合があるので注意する。

3 灰星病

- (1) 予報の内容 発生量：平年並 発生時期：やや早い
(2) 予報の根拠
①伝染源量は、平年並と予想される。
②ももの生育は平年と比べ早いことから、発生時期はやや早いと予想される。
(3) 防除上の留意点
①いずれの品種も収穫 20 日前頃からの防除が重要となるので、「県防除基準」を参照し、防除する。降雨の状況に応じて散布間隔を短縮する。
②花腐れや被害果実は、見つけ次第除去する。

4 シンクイムシ類

- (1) 予報の内容 発生量：平年並 発生時期：平年並～やや早い
(2) 予報の根拠
①越冬世代幼虫量は、平年並と予想される。
②越冬世代成虫が、平年と比べやや早く誘殺されていることから、発生時期は平年並～やや早いと予想される。
(3) 防除上の留意点
①芯折れの被害枝を見つけたら、切除して焼却する。
②「県防除基準」を参照し、防除する。

5 ハマキムシ類

- (1) 予報の内容 発生量：平年並 発生時期：平年並～やや早い
(2) 予報の根拠
①越冬幼虫量は、平年並と予想される。
②ももの生育は平年と比べ早いことから、発生時期はやや早いと予想される。
(3) 防除上の留意点
①発生が多いところでは、「県防除基準」を参照し、早期に防除する。

6 モモハモグリガ

- (1) 予報の内容 発生量：平年並 発生時期：平年並～やや早い
(2) 予報の根拠
①越冬世代成虫が、平年と比べ早く誘殺されていることから、発生時期は平年並～やや早いと予想される。
(3) 防除上の留意点
①「県防除基準」を参照し、防除する。
②食入幼虫が多い場合は、有機リン剤を選択して散布する。

7 アブラムシ類

- (1) 予報の内容 発生量：平年並 発生時期：平年並～やや早い
(2) 予報の根拠
①気象要因（+） 向こう 1 か月の気象予報では、気温は平年並か高いと予想されている。
②ももの生育は平年と比べ早いことから、発生時期は平年並～やや早いと予想される

- (3) 防除上の留意点
①「県防除基準」を参照し、防除する。

8 カメムシ類

- (1) 予報の内容 発生量：平年並 発生時期：平年並～やや早い
(2) 予報の根拠
①フェロモントラップによる誘殺数は、平年と比べ少ない。
②ももの生育は平年と比べ早いことから、発生時期はやや早いと予想される。
(3) 防除上の留意点
①「県防除基準」を参照し、発生園では早めに防除する。

VIII ぶどう

1 晩腐病

- (1) 予報の内容 発生量：平年並 発生時期：やや早い
(2) 予報の根拠
①越冬伝染源量は、平年並と予想される。
②ぶどうの生育は、平年と比べ早いことから、発生時期はやや早いと予想される。
(3) 防除上の留意点
①「県防除基準」を参照し、降雨前後にすみやかに防除する。
②薬剤耐性菌出現を防止するため、同一系統・同一薬剤は連用せず、異なる系統の薬剤でローテーション散布する。
③薬剤の散布むらが生じないよう新梢管理を行う。

2 べと病

- (1) 予報の内容 発生量：平年並 発生時期：やや早い
(2) 予報の根拠
①越冬伝染源量は、平年並と予想される。
②ぶどうの生育は、平年と比べ早いことから、発生時期はやや早いと予想される。
(3) 防除上の留意点
①「県防除基準」を参照し、間隔をあけすぎないように定期的に防除する。
②薬剤耐性菌出現を防止するため、同一系統・同一薬剤は連用せず、異なる系統の薬剤でローテーション散布する。
③薬剤の散布むらが生じないよう新梢管理を行う。

3 灰色かび病

- (1) 予報の内容 発生量：平年並 発生時期：やや早い
(2) 予報の根拠
①越冬伝染源量は、平年並と予想される。
②ぶどうの生育は、平年と比べ早いことから、発生時期はやや早いと予想される。

(3) 防除上の留意点

- ①「県防除基準」を参照し、開花期前後にすみやかに防除する。
- ②薬剤耐性菌出現を防止するため、同一系統・同一薬剤は連用せず、異なる系統の薬剤でローテーション散布する。
- ③花かす落としを励行し、被害花房や果房は見つけ次第、除去する。

4 黒とう病

- (1) 予報の内容 発生量：**平年並** 発生時期：**やや早い**
- (2) 予報の根拠
 - ①越冬伝染源量は、平年並と予想される。
 - ②ぶどうの生育は、平年と比べ早いことから、発生時期はやや早いと予想される。
- (3) 防除上の留意点
 - ①「県防除基準」を参照し、展開葉2～3枚時の防除を徹底する。
 - ②防除間隔をあけすぎないようにするとともに、早期に袋かけを行う。

5 チャノキイロアザミウマ

- (1) 予報の内容 発生量：**平年並** 発生時期：**平年並～やや早い**
- (2) 予報の根拠
 - ①越冬虫量は、平年並と予想される。
 - ②ぶどうの生育は、平年と比べ早いことから、発生時期は平年並～やや早いと予想される。
- (3) 防除上の留意点
 - ①「県防除基準」を参照し、開花期前後に防除する。
 - ②薬剤の種類や散布時期によって、果粉溶脱や果粒にさびを生じるものがあるので注意する。

IX うめ

1 かいよう病※

- (1) 予報の内容 発生量：— 発生時期：—
- (2) 予報の根拠
 - ※本病については、令和5年4月から巡回調査を開始。前年や平年の調査データがなく比較できないことから、発生量及び発生時期は「—」とした。
- (3) 防除上の留意点
 - ①「県防除基準」を参照し、定期的に防除する。

2 黒星病※

- (1) 予報の内容 発生量：— 発生時期：—
- (2) 予報の根拠
 - ※本病については、令和5年4月から巡回調査を開始。前年や平年の調査データがなく比較できないことから、発生量及び発生時期は「—」とした。

(3) 防除上の留意点

- ①4月下旬から5月中旬が防除適期であるので、「県防除基準」を参照し、定期的に防除する。

X 野菜

1 施設果菜類（トマト）の葉かび病

- (1) 予報の内容 発生量：**平年並** 発生時期：**平年並**
- (2) 予報の根拠
 - ①5月上旬の巡回調査では、発生はみられなかった。
- (3) 防除上の留意点
 - ①「県防除基準」を参照し、防除する。
 - ②多湿条件で発生しやすいので、過度の密植は避け、適正なかん水や換気等によって環境条件の改善に努める。

2 施設果菜類（きゅうり）のべと病

- (1) 予報の内容 発生量：**平年並** 発生時期：**平年並**
- (2) 予報の根拠
 - ①巡回調査では、発生はみられなかった。
- (3) 防除上の留意点
 - ①「県防除基準」を参照し、防除する。
 - ②降雨や灌水時の地表面からの水のはね上がりによって感染することが多いので、ポリマルチ、敷わら等によって水滴のはね上りを防ぐ。
 - ③強度の摘心、着果過多、あるいは肥料切れなどによる草勢の衰えは、発病を助長するので適正な栽培管理を行う。

3 施設果菜類（きゅうり、トマト等）の灰色かび病

- (1) 予報の内容 発生量：**平年並** 発生時期：**平年並**
- (2) 予報の根拠
 - ①巡回調査では、発生はみられなかった。
- (3) 防除上の留意点
 - ①昼夜の温度差が大きくなり、結露量が増えると発生しやすくなる。
 - ②施設内の換気を十分行い、除湿を図る。除湿器の利用は、ハウス内の湿度上昇抑制に有効である。
 - ③発病葉、発病果は見つけしだい除去する。
 - ④「県防除基準」を参照し、防除する。

4 施設果菜類（きゅうり、トマト等）のうどんこ病

- (1) 予報の内容 発生量：**平年並** 発生時期：**平年並**
- (2) 予報の根拠
 - ①巡回調査では、発生はみられなかった。
 - ②気象要因(+) 向こう1か月の気象予報では、気温は平年並～高いと予想されている。

(3) 防除上の留意点

- ①「県防除基準」を参照し、7～10日間隔で薬剤散布を行う。その後は発生状況に応じて適宜に防除する。多発してからの薬剤散布は効果が劣る。
- ②薬剤耐性菌出現を防止するため、同一系統・同一薬剤は連用せず、異なる系統の薬剤でローテーション散布する。
- ③下葉で発病の著しいものは、摘葉する。

5 施設果菜類（きゅうり、トマト等）のアザミウマ類・アブラムシ類

(1) 予報の内容 発生量：平年並 発生時期：平年並

(2) 予報の根拠

- ①巡回調査では、東北信地域のきゅうりの一部施設栽培ほ場で、アザミウマ類の寄生がわずかにみられた。
- ②気象要因(+) 向こう1か月の気象予報では、気温は平年並～高いと予想されている。

(3) 防除上の留意点

- ①定植時に粒剤処理を行い、生育期間中は「県防除基準」を参照し、防除する。
- ②日中の気温上昇で側窓を開放する場合は、施設内への飛び込みに注意する。

6 施設果菜類（きゅうり、トマト等）のオンシツコナジラミ

(1) 予報の内容 発生量：平年並 発生時期：平年並

(2) 予報の根拠

- ①巡回調査では、東北信地域のトマトの一部施設栽培ほ場でコナジラミ類の寄生がわずかにみられた。

(3) 防除上の留意点

- ①定植時に粒剤処理を行い、生育期間中は「県防除基準」を参照し、防除する。
- ②日中の気温上昇で側窓を開放する場合は、施設内への飛び込みに注意する。

7 アブラナ科野菜の黒斑細菌病

(1) 予報の内容 発生量：平年並 発生時期：平年並

(2) 予報の根拠

- ①巡回調査では、発生はみられなかった。

(3) 防除上の留意点

- ①アブラナ科野菜の連作は避ける。
- ②品種間差が大きいので、品種選定に留意する。
- ③「県防除基準」を参照し、防除する。
- ④収穫残さは二次伝染源となるので、早期に除去し適正に処理する。

8 アブラナ科野菜のコナガ

(1) 予報の内容 発生量：やや多 発生時期：平年並

(2) 予報の根拠

- ①巡回調査では、寄生はみられなかったが、フェロモントラップ調査では一部で誘殺頭数が平年と比べやや多かった。

②気象要因(+) 向こう1か月の気象予報では、気温は平年並～高いと予想されている。

(3) 防除上の留意点

- ①「県防除基準」を参照し、防除する。
- ②薬剤耐性菌出現を防止するため、同一系統・同一薬剤は連用せず、異なる系統の薬剤でローテーション散布する。

9 レタスの斑点細菌病

(1) 予報の内容 発生量：平年並 発生時期：平年並

(2) 予報の根拠

- ①巡回調査では、発生はみられなかった。

(3) 防除上の留意点

- ①「県防除基準」を参照し、防除する。
- ②ナモグリバエの吸汁産卵痕から感染しやすいので、ナモグリバエの発生が多い場合には注意する。

10 腐敗病・すそ枯病・灰色かび病・菌核病

(1) 予報の内容 発生量：平年並～やや多い 発生時期：平年並

(2) 予報の根拠

- ①巡回調査では、発生はみられなかったが、中信地域の調査ほ以外で、腐敗病の発生がみられた。

(3) 防除上の留意点

- ①「県防除基準」を参照し、防除する。
- ②凍霜害の被害があったほ場では、低温性の腐敗病、灰色かび病、菌核病が発生するおそれがある。また、結球が進んだものほど低温等の影響を受けやすく、今後の天候によっては被害部から腐敗性病害が発生することがあるので注意する。

11 アスパラガス茎枯病

(1) 予報の内容 発生量：平年並 発生時期：平年並

(2) 予報の根拠

- ①5月上旬の巡回調査では、発生はみられなかった。
- ②気象要因(+) 向こう1か月の気象予報では、気温は平年並～高いと予想されている。

(3) 防除上の留意点

- ①「県防除基準」を参照し、防除する。
- ②春収穫後の残茎に発生がある場合は、伝染源になるので早期に処分する。
- ③降雨によるはね上がりにより感染が拡大するので、土寄せ、敷わら等を処理する。
- ④散布間隔を短縮して立茎時に重点防除すると、茎枯病の予防に効果が高い。
- ⑤薬剤耐性菌出現を防止するため、同一系統・同一薬剤は連用せず、異なる系統の薬剤でローテーション散布する。

12 アスパラガスのジュウシホシクビナガハムシ

- (1) 予報の内容 発生量：平年並 発生時期：平年並
(2) 予報の根拠
①巡回調査では、寄生はみられなかった。
(3) 防除上の留意点
①山際のは場や前年に多発したほ場では、発生が多い。
②「県防除基準」を参照し、防除する。

13 タマネギベと病

- (1) 予報の内容 発生量：平年並 発生時期：平年並
(2) 予報の根拠
①巡回調査では、発生がみられなかった。
②気象要因(+) 向こう1か月の気象予報では、気温は平年並～高いと予想されている。
(3) 防除上の留意点
①「県防除基準」を参照し、防除する。
②発病茎葉は二次伝染源となるので、早期に除去し適正に処分する。

14 アブラムシ類（野菜・花き全般）

- (1) 予報の内容 発生量：平年並 発生時期：平年並
(2) 予報の根拠
①巡回調査では、発生がみられなかった。
②気象要因(+) 向こう1か月の気象予報では、気温は平年並～高いと予想されている。
(3) 防除上の留意点
①シルバーストライプマルチの利用により、有翅虫の飛来忌避が期待できる。
②播種または定植時に粒剤を施用し、初期の発生を抑える。

15 ハモグリバエ類（野菜・花き全般）

- (1) 予報の内容 発生量：平年並 発生時期：平年並
(2) 予報の根拠
①巡回調査では、寄生はみられなかった。
②気象要因(+) 向こう1か月の気象予報では、気温は平年並～高いと予想されている。
(3) 防除上の留意点
①育苗期から防除を徹底し、無寄生苗を定植する。
②定植時に粒剤を処理する。
③生育期は、成虫の発生状況や吸汁産卵痕をよく観察し、防除が遅れないように注意する。

16 オオタバコガ（野菜・花き全般）

- (1) 予報の内容 発生量：平年並 発生時期：平年並
(2) 予報の根拠
①巡回調査では、寄生はみられなかった。
②気象要因(+) 向こう1か月の気象予報では、気温は平年並～高いと予想されている。
(3) 防除上の留意点
①「県防除基準」を参照し、防除する。
②薬剤耐性菌出現を防止するため、同一系統・同一薬剤は連用せず、異なる系統の薬剤でローテーション散布する。
③結球野菜では、結球始期を重点的に1週間間隔で2～3回防除を行う。